

## 令和7年度第1回仙台市若林区区民協働まちづくり事業評価委員会 議事要旨

○日時 令和8年2月3日(火)18:00～19:40

○会場 若林区中央市民センター 別棟 第3会議室

### ○出席委員

針生 英一 委員      田澤 紘子 委員      高橋 夕香 委員  
菅原 真枝 委員      梅原 隆司 委員      菊池 馨 委員

### ○議事概要

#### 1. 委員長・副委員長の選出

委員長 針生 英一 委員

副委員長 田澤 紘子 委員

#### 2. 議事録署名委員の選出 針生委員 及び 田澤委員 (以降名簿順とする)

#### 3. 実績報告

1 団体 10 分で発表し、1 団体ごとに評価委員による質疑をし、最後に評価委員長から総評を得る。

#### (1) AWESOME PORT プロジェクト (オーサムポート)

##### 〈質疑応答〉

Q ここまでの事業を行い、評価アンケートも非常に良い感想をいただいているが、関わっている皆さんの負担はどうだったのか。また、偏りはなかったのか。継続的に実施していく中で、キーとなる人達の交流時間など、そのあたり工夫されたところはあったのか。

A 集まっている主要メンバーが、一人は居場所づくりの雰囲気づくりや子供たちの話を聞いたり、事務的な部分や外部との窓口は自分が担ったり、子どもたち自身が企画したり、アライメシでは高齢者が中心となって食事を作ったりと、それぞれ喜びを感じる部分を中心となって動いているので、それほど負担は感じなかった。一番難しかったのは、子どもたちの精神面が揺れ動くときにどう支えていくかで、そこがこれからの課題で、皆ともっと話す機会を増やしていきたい。

**意見** きちんと今後に向けた課題の抽出や取り組みの方向性が明確で素晴らしい。これからも活動の継続を頑張っていたきたい。

Q 参加者は新規の方が多いか、リピーターが多いのか、雰囲気的にどうつかんでいるのか。今後、参加者を増やす方向でいくのか、リピーターを大事にする方向で行くのか。

A 週1回『はぴちゅー』の活動をしていて、そこにいる子は音楽を中心に活動しているので、音楽をやらない子は何をしたらいいかなと言う。ただ、そこで一緒に時間を過ごすことが大事だと思っているが、仲良くなっていくうちに何かをやりたいと思うこともあるので、これからは音楽以外のこと、アニメや推し活みたいなものを作って、自分がやりたいことを一緒に探していけるようにしたい。新しい子も増やしつつ、でも今いる子どもたちからは大人数になると学校と同じになってしまっていてあまり嬉しくないとの声もある。誰でも来ていい場所だけど、深めながら広げていきたい。

**意見** 1年目から素晴らしい活動と見守ってきたが、ますます重要な活動になっていて感心している。これからも、サステナブルな活動が大きなテーマになると思うが、来年3年目とし

てぜひチャレンジしていただきたい。その上で、オーサムポートは量的にも本格的なものも含め活動の幅も非常に広く一定数以上の参加者があり、運営会社も含め関係性の構築が素晴らしい。そのためデータを取れる環境にあるのではないかとと思われる。目の前のことに懸命にやっていると、自分たちだけでは第三者的な評価が難しいが、我々の立場から見ると様々なデータが取れる環境にあるのではと思う。大学や研究機関の皆さんも現場をお持ちなので、そうした機関等と組んで第三者による調査分析や学術的評価もやっていただきたいと思うし、そうしたデータをもとに、3年目を見据えて、自分たちが自立的な活動に向けどのように移行し構築していくかをぜひ検討されると良い。

## (2) 親子で学ぼう情報リテラシー教室（TGU情報リテラシー教室）

〈質疑応答〉

**意見**素晴らしい内容だと思う。反省点として広報活動が行き届かなかったとあるが、しっかり振り返りが出来ておりぜひ生かして行ってほしい。まちづくり活動助成事業としては、もう少しまちづくりの視点でしっかり取り組んでいただきたかった。報告書を読むと、地域とのコミュニケーションが足りないと思われる。もし、次年度取り組まれる場合には、地域とのコミュニケーション、それがまちづくりにつながる要素だと思うので、そこを踏まえ取り組んでいただけると良い。

A 私たちもぜひ地域と関わりたいと思っている。今回はなかなか参加者が伸びない部分もあったが、団体と町内会をつなぐスマホ教室、市民センターや小学校からも情報モラル教育の講師を依頼された。その時には各20名の参加があったり、学年単位で依頼されることもあったので、そうした地域や学校とつながるだけではなく話し合いも行っていきたい。

**意見**地域を巻き込んでいくのは学生には大変だと思う。例えば受講された親をサポートとして巻き込んでいくのもあるのではないか。一方的に伝えるという形ではなく、受けた人たちがそれに共感し一緒に活動してくれる仲間を増やす。簡単ではないが、地域連携やまちづくり助成事業との整合性を考えると、地域を巻き込んでいくことは必要だと思う。

Q カラースライドの最後に他団体との共同で教育支援を行うとあるが、具体的にはどこか決まっている団体はあるのか。

A 仙台子ども財団と今後つながれば良いと思っている。その財団とは別のイベントで一緒にさせていただいた。

Q 子ども財団と絡んでいるいろんな団体を紹介してもらうなど、ぜひ横のつながりを作ってください、何か一緒に出来ることはないかという視点で考えてみてはどうかと思う。

A エフアシストとは12月20日に営業とプログラミングをかけたイベントを行い大変有意義だった。次年度も継続して行いたいと考えている。

Q 参加者からは様々なニーズやレベルに応じた対応を求められる。今後、それぞれが満足いただくためにどのような工夫を考えているか。

A 団体としては、4人一組の班を作ってグループワークを行い、理解している子どもが理解できていない子どもに教える機会を作ることを考えている。実際に、1月24日の教室ではそうした様子がたくさん見受けられた。それを2月の教室でも生かしていきたい。

Q この事業は、基本的には単発的なものか、それともシリーズとして考えているのか。その辺が、リピーターを増やしたり、参加される子どもの傾向等をよりの確につかむことでターゲットをどこにもっていくかが明確になるのではないか。

A 一つ目の質問について、毎回違うテーマで、単発で完結するよう実施している。毎回必ず

参加できるとは限らないので、1回ごとに終わる講座に、その都度話題になっている内容、例えばクマのフェイクニュースも出てきているのでフェイクニュースの見分け方を子どもレベルに落とししたものや、AIの使い方、写真に見分け方などを加えて実施している。二つ目のご意見については、我々もリピーターを一応把握していて、リピーターになる割合を上げたり、参加した親や子どもが友達を誘ってきてくれるような楽しいイベントにしていきたいと考えている。

Q 参加者人数の集計はスライドのどちらに記載されているのか。

A スライドに記載なし。参加者数は26組59名、2月21日も3組7名申し込んでいる。

(3) 地域の児童を対象にした子ども食事調査・献立開発（一般社団法人アスリートアトラス）  
〈質疑応答〉

Q 一つ目として、学校へのアンケートの依頼は大変だったかと思う。若林区が肥満の傾向にあるというそのデータを基に話されているが、対象校の選定はその傾向に合致する学校だったのかどうか。二つ目として、標本数が少ないと思われるが、そこから全体の傾向を示すのはどうなのか。三つ目として、区内には自校調理の学校と給食センターから配食される学校とあり、難しいと思うが自校調理の学校の栄養士と協力するということはあるのかどうか。

A 今回、南材木町小学校と南小泉小学校をアンケート先としたのは、アトラスカフェから近いことがあり、さらに近くの学校に貢献するという意味合いもあって2校を選んでいる。肥満率が高いのは、国道4号線を超えた六郷・七郷あたりで肥満が多いのではと予測していて、カフェから登下校時の児童の様子を見てみると肥満はそれほど高くないと感じていたので、このアンケートの結果は衝撃だった。小学校になかなかアンケート等をお願いしづらい状況もあり、いろんな小学校にお願いすることはかなわない状況だった。それから、学校の栄養士との協力については、今のところ出来ていない状況で、今後の参考にさせていただく。補足として、当初は集客という意味でプログラミング教室も同時開催を考えたが、助成金としては採択されず困っていたところオーサムポートにご協力いただき、イベント出店しながらアンケート調査を行わせていただいた。今後、このようなつながりを通じてアドバイスいただいた他の地域や学校のアンケートを取っていったらと思っている。

Q アンケートについてお聞きしたい。スライド17ページの『子どもメニュー作成の基準』について、アンケート結果から得られたことがどこに生かされているのか、また若林区メニューの箇所について、若林らしさはどこにあるのか。

A アンケートから得られる情報としては、スライドにあるとおり排便の回数が2~3日に1回の児童が3分の1と多いことから、食物繊維を多めに設定した。また、朝食・昼食・休日の昼食と平日の夕食で食事内容を比べたところ、休日は手間をかけられないことがあることが分かり、お手軽メニューで手軽に栄養が取れる一品をメニューとして載せている。若林区らしさとしては、今後のこととして地域の伝統野菜を使った献立を作っていければと考えている。

Q リフレットはどのくらい配布されたのか。

A 今デザインを作成中で、これから配布する。見開きで1000枚印刷予定。

#### (4) 総評

皆さま、夜遅くまで大変お疲れ様でした。各団体から非常に濃い内容のお話が聞けたかと思う。まずは、それぞれの立場から若林区の課題に真摯に向き合い、限られた時間とご支援の中で事業を企画・実施されたことに委員会を代表して皆さまに敬意を表したいと思う。本当にありがとうございました。

本年度の報告をお聞きし強く感じたことは、やはり若林区が直面している課題が決して一面的なものではないということで、その一つは若者の孤立だったり子どもを取り巻くデジタル環境の激変、或いは食や健康に関する課題など、どれも現代において避けて通れないテーマであり、行政だけでは十分に手が届きにくい領域でもあったと思う。

そのような中、最初に報告いただいたオーサンプォートは、居場所という日常的な場を通して関係性を育んだ。2番目にご報告いただいたTGU情報リテラシー教室は、情報や技術の向き合い方に関して親子で学ぶ機会を作った。3番目にご報告いただいたアスリートアトラスは、専門的な知見を生かし地域の課題を見える化した。それぞれの活動が非常に地域の課題解決に役立っている。それぞれの事業はアプローチこそ異なるが、地域をより良くしたいという思いにおいては共通しており、若林区のまちづくりが皆さんのような多様な担い手によって支えられていることを改めて実感する報告会であった。

一方で、本委員会は成果と同時に課題についても皆さまにお伝えする役割があり、どのように地域全体に広げていくのか、或いは事業終了後に何が地域に残るのか、或いは次の担い手にどう繋げていくのか、といった点について今後さらに工夫が必要と感じている。ただ、これらの課題は決して否定的なものではなく、事業が一步前に進んだからこそ見えてくるような、次のステージにあるというふうには思っている。試行錯誤を重ねながら地域の中で実践を続けてこられた皆さまだからこそ、次の展開に挑戦する土台が整っているのではないかと感じている。

区民協働まちづくり活動助成事業は、完成形を求める制度ではなく、地域の中で芽生えた取り組みを育て、繋ぎ、広げていくための投資であり伴走であると我々委員は考えており、本日の報告が各団体の皆さまにとって自らの活動を振り返り、次の一步を考えるきっかけとなることを委員全員が願っている。

本日は本当にありがとうございました。

#### 4 閉会